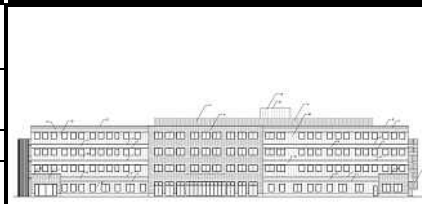


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 県央厚木病院	階数	地上4F
建設地	神奈川県厚木市関口字内輪812-5	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	250 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年3月 予定	評価の実施日	2012年11月22日
敷地面積	3,831 m ²	作成者	株式会社悠久設計
建築面積	1,537 m ²	確認日	2012年11月22日
延床面積	5,562 m ²	確認者	株式会社悠久設計



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 1
LR2 資源・マテリアル: 1
LR3 敷地外環境: 1

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
外壁面の換気口を隠してすっきりした外観としながら、それが窓の庇を兼ねており、夏の日射負荷を低減している / 設備PSを廊下片側にまとめることで、原則、居室内に入らなくともメンテナンスが可能であり、また居室間にPSが無いので、将来間仕切り変更が必要になった場合も制約が少ない / ALCに対し吹付けの断熱材を設けることで気密性が高まり空調、換気効率を上げている / ほぼ全ての照明器具をLEDとし、消費電力の低減を図っている		-
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
外皮の断熱強化や複層ガラスの採用により熱負荷を抑制し、温熱環境の向上に配慮している。十分な自然採光や自然換気の得られる窓を設置し、室内環境の向上に配慮している。	維持管理に配慮した設計(ビニル床やビニル巾木の採用、金属部のメッキ処理等)としており、機能性の向上に努めている。	沿道部の緑化に加え、屋上緑化も計画しており、生物環境の保全と創出に努めている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外皮の断熱強化および複層ガラスの採用により、建物の熱負荷抑制に努めている。また、高効率機器の採用により、消費エネルギー量の削減に努めている。	節水型の水栓および便器の採用や井水利用の導入により、水資源保護に配慮している。非構造物にリサイクル材を採用し、非再生性資源の使用量削減に努めている。	十分な量の駐車場・駐輪場の確保や、缶つぶし機の設置等により、地域インフラへの負荷抑制に配慮している。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される